1. 実技審査実施要領

（令和５年度　柔道実技審査について）

Ⅲ．柔道実技審査

本来、柔道整復師としての柔道教育は、競技目的の柔道を教育するものではなく、昇段を目指し柔道整復師の技術のバックボーンである手技や人格の形成、心身の鍛錬を目的とし、人としての振舞いの基本（人に対しての接し方や対話の仕方）礼儀作法の習得が最終目標である。従って、基本的な事項ができていない場合には不合格（Ｆ評価）となることを予め周知されたい。

１．受審者

１）審査を受審する者として清潔で適切な規格、ゼッケンが縫い付けてある柔道衣を着用すること。

２）欠席者又は傷病により本来の審査を完全に実施することができなかった者は、その理由を証する診断書（医師による診断書が取れない場合には養成施設長の証明書）を外部審査員に提出しなければならない。また、審査終了後には、速やかに診断書又は証明書を財団に提出しなければならない。

２．立会人

１）当該養成施設の教員１名を立会人として審査会場に入室させる。

２）立会人は、審査の状況、当該養成施設の教育内容及び方法の確認のために審査会場に入室するものであり、審査に関する一切の権限を有しない。

３）外部審査員の了解なく審査会場への入退室及び途中交代を禁ずる。

４）立会人は、審査の内容について気付いた点や今後に向けた留意点を含め記録する。

３．審査員数

原則として受審者 90 名を基準とし、受審者 90 名までは１審査会場とし、外部審査員１名で審査を行う。受審者が 91 名以上の場合は審査会場を増設する。

４．審査項目

１）評価項目

①評価１（服装・態度）

②評価２（礼法）

③評価３（受身）

④評価４（投の形）

~~⑤評価５（約束乱取）~~（令和５年度は実施しない）

２）実技項目

①評価１（服装・態度）

柔道衣の着方、言動行動

②評価２（礼法）

自然本体の構え、立礼、正坐のしかた、坐礼など

③評価３（受身）

右前回受身、左前回受身

④評価４（投の形）

手技　　……　浮落、背負投、~~肩車~~※

腰技　　……　浮腰、払腰、~~釣込腰~~※

足技　　……　送足払、支釣込足、~~内股~~※

※の技については令和５年度は出題しないこと。

~~⑤評価５（約束乱取）~~

~~１分間程度の約束乱取を行う。~~

~~※受審者がお互いに２～３本投げ合うことではない。~~

５．出題方法

１）外部審査員はすべての評価項目を出題する。外部審査員は、評価１～4 を順に出題する。評価４については上記 6 つの技の中から一つを選択し出題する。

２）評価４の出題は、受審者ごとに変更し、外部審査員が出題する。

３）柔道実技審査が不可能な者に対しては口頭試問により評価を行う。

口頭試問の出題項目　　①柔道について

②礼法について

③国際柔道試合審判規定について

※上記の出題項目①～③について各２題、計６題を出題する。

【口頭試問の場合の注意事項】

1. 実技審査が可能かどうかを学校側が明示する。
2. 実技審査が可能な場合には一切口頭試問は行わない。
   無理をさせてはならないが、一通りの実技審査を行う。
   （たとえ前日に骨折等の負傷があっても、養成施設側より実技審査を行う明示があった場合には実技審査を行う）
3. 口頭試問は柔道衣で行う。
4. 口頭試問であってもＦ評価に該当する場合には、相当の評価を行う。

６．審査方法

１）審査員及び受審者

①審査員は財団からの外部審査員とする。

②各審査会場につき外部審査員１名が受審者２名の実技を審査し、個々に評価を行う。

③審査会場には２名ずつ入室する。

２）審査時間

①受審者１組につき審査時間は、評価１～評価４をすべて行い、１組５分を標準として実施する。

②口頭試問の場合には、５分を経過した時点で審査は終了とする。

３）実技用具

①審査に使用する実技用具は、養成施設が準備し、会場に備える。

４）受審者がＦ評価に該当する場合においても審査は最後まで実施し、個人票

に得点を記入すること。

7．評価及び採点方法

1）評価方法

①柔道実技審査個人票（様式 3-3）を用いて、出題した実技項目の各項について評価する。

②評価の各項目は外部審査員ができたと判断する項に○、できていないと判断する項には×を記入し、所定の時間内に実技を終了できず評価ができない項にはーを記入する。（△は評価としないこと）

2）採点方法

①採点は、評価 1～評価 4 の各項目に記入した○の数を外部審査員の評価得点（20 点満点）とする。

※○の数が 0 個の場合は 0 点となる。

②外部審査員がＣ又はＦとした場合には、必ずコメント欄に不適切であった理由を記載する。

8．総合評価

1）審査終了後、外部審査員は審査会場ごとに評価得点を確認のうえ黒インクで柔道実技審査総合評価表（様式 2-2）に転記し、総合評価を行う。総合評価表の外部審査員名及び立会人名は必ず本人が署名する。（押印は必要なし）

2）総合評価区分

①外部審査員の評価得点合計を総合評価とする。

総合評価区分（3 段階評価）は下記のとおりとする。

Ａ　……　~~25 点～20 点~~　20 点～16 点

Ｂ　……　~~19 点～15 点~~　15 点～12 点

Ｃ　……　~~14 点以下~~　11 点以下

②総合評価がＦとなった者は再審査を受審しなければならない。

《　Ｆ評価の基準　》

柔道審査を受審する者としての身嗜みについて

・相手に負傷を負わせるような長さに爪を伸ばしている

・極端な茶髪や頭髪をしている

・無精髭を生やしている　派手な化粧をしている

装飾品等はつけないについて

・眼鏡、時計、指輪、ネックレス、ピアス、ミサンガ、髪飾り、マニキュア、ネイルアートなどをつけて審査をうけている

・金具の入ったサポーター類をつけて審査をうけている

柔道衣を正しく着るについて

・上衣の襟が前後逆である

・ズボンを前後逆に穿いている

前回受身で頭を強く打たないについて

頭を強く着きながら回転して受身をしている

③口頭試問における評価は１問１点　合計６点満点とし、次のように総合評価（2 段階評価）をする。

Ｂ　……　６点～4 点

Ｃ　……　３点以下

④総合評価Ａ及びＢの受審者は合格とし、審査を欠席した者及び総合評価Ｃの者は再審査を受審しなければならない。

柔道実技審査総合評価表（令和5年度）

（様式 2-2）

審査実施日　令和　　年　　月　　日

養成施設コード	
〔養成施設〕	

〔外部審査員署名　　〕

〔立　会　人　署名　　〕

審査会場ごとに外部審査員が評価得点を確認のうえ、黒インクで転記し、総合評価を記載する。

No.	受審番号	氏　　名 生年月日	投の形の出題番号	得　点	総合評価			備　　考
		ﾌﾘｶﾞﾅ （　　年　　月　　日生）			A	B	C	
		ﾌﾘｶﾞﾅ （　　年　　月　　日生）			A	B	C	
		ﾌﾘｶﾞﾅ （　　年　　月　　日生）			A	B	C	
		ﾌﾘｶﾞﾅ （　　年　　月　　日生）			A	B	C	
		ﾌﾘｶﾞﾅ （　　年　　月　　日生）			A	B	C	
		ﾌﾘｶﾞﾅ （　　年　　月　　日生）			A	B	C	
		ﾌﾘｶﾞﾅ （　　年　　月　　日生）			A	B	C	
		ﾌﾘｶﾞﾅ （　　年　　月　　日生）			A	B	C	
		ﾌﾘｶﾞﾅ （　　年　　月　　日生）			A	B	C	
		ﾌﾘｶﾞﾅ （　　年　　月　　日生）			A	B	C	
		ﾌﾘｶﾞﾅ （　　年　　月　　日生）			A	B	C	
		ﾌﾘｶﾞﾅ （　　年　　月　　日生）			A	B	C	
小　計（人）								

総合評価　A(評価合計得点 20～16 点)　B(評価合計得点 15～12 点)　C(評価合計得点 11 点以下)

※外部審査員名及び立会人名は必ず本人の自筆によるものとする。
※女子の審査順序は、前又は後ろに集合させる。
※日本国籍を有しない者の生年月日は西暦とする。
※備考欄には、審査方法などに考慮が必要な理由又は欠席の理由を記載する。
※F 評価は備考欄に記載すること。
※柔道整復師養成施設指導ガイドライン6－(7)に係る審査結果の記録・保存に留意願います。

公益財団法人　柔道整復研修試験財団

柔道実技審査 個人票（令和５年度）

（様式 3-3）

養成施設名			
受審番号		受審者名	

必修項目：次の事項ができない場合には総合評価得点が Ｆ となります（ Ｆ となった場合は必ずコメントを記入）
・柔道審査を受審する者としての身嗜み（爪、頭髪、髭、化粧など）が適切であり、装飾品はつけていないこと
（眼鏡、時計、指輪、ネックレス、ピアス、ミサンガ、髪飾り、マニキュア、ネイルアートなど）
・金具の入ったサポーター類をつけている
・柔道衣の襟が前後逆である。ズボンを前後逆に穿いている
・前回受身で強く頭を打つ　　すべてチェック（ できた：○　できない：×　評価できない：－ ）

※ 「投の形」で出題した項目に○印をつけてください。

実技項目	服装・態度	柔道を行うに当たり基本的な事項を審査する
	礼法	受身・形において礼法が正しく行われているかを審査する
	受身	左右の前回受身がしっかりできるかを審査する
	投の形	①浮落②背負投③浮腰④払腰⑤送足払⑥支釣込足から一つを選択し審査する
	口頭試問	通常の審査が不可能な者を対象に行う 柔道について・礼法について・国際柔道試合審判規定について（各2題出題）審査する

評価 1	服装・態度	判定
1	柔道衣の着方	
2	行動・言動	
	合計	

評価 2	礼法	判定
1	気をつけの姿勢	
2	正しい自然本体の構え	
3	立礼の正しい姿勢	
4	左前右後、左座右起	
5	正しい坐り方、立ち方	
6	坐礼の正しい姿勢	
	合計	

評価 3	受身	判定
1	正しい手の着き方	
2	適切な回転	
3	正しい受身で立つ	
4	大きな受身	
	合計	

評価 4	形	判定
1	正しい間合い	
2	正しい組み方	
3	正しい足運び	
4	正しい崩し方	
5	正しい投げ方	
6	正しい受身	
7	残心	
8	正しい服装の直し方	
	合計	

口頭試問評価（各項目２題出題）		内　　容	判定
1	柔道について（2 点）		
2	礼法について（2 点）		
3	審判規定について（2 点）		

コメント（採点が 11 点以下又はＦの場合、必ずコメントを記入）	得　点
	点

審査員氏名　　審査実施日　令和　　年　　月　　日